

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

指定文化財(史跡)



場所

倉敷市児島味野



時代

江戸時代



指定年月日

史跡：
昭和52年4月8日

国指定(建造物)：
平成18年12月19日



所有

(財)竜王会館

のざきけきゅうたく

野崎家旧宅

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



し せき

この史跡について

江戸時代後半、児島半島の南側を中心に広大な塩田開発を行い、「塩田王」となった野崎武左衛門(1789～1864)の居宅です。低い丘陵を背景に長屋門、御成門が置かれ、その奥には南北に連なる広大な敷地があります。

中央に表書院、主屋を置き、その北側には内蔵、大蔵、書類蔵、道具蔵、岡蔵、夜具蔵が建ち並んでいます。

桁行約26mの堂々とした構えの長屋門を入ると、踏石を伝って主屋・表書院へ導かれます。表書院は南東面に縁座敷が巡らされ、品がありゆったりとした内部空間を形づくっており、その前面には3棟の茶室のほか、奇石・巨石を組み、松やツツジ、苔を巧みに配した美しい枯山水の庭園が広がっています。

武左衛門の精神が反映された建築群は旧状がよく保存されており、庭園や塩業資料の展示などを含めて広く一般に公開されています。

